

— 告 白 —

KIT
キャンパス
レポート ⑧
文・杉村裕之



アマンダ・アンリバリ

(Aminda Barrio Josephine Gabriella Anrihari)

金沢工業大学 バイオ・化学部

生命・応用バイオ学科四年

インドネシア

Stella Ducl Senior High School 出身

インドネシアから日本へ 世界で役立つために学ぶ

KITキャンパスを今日も多く
の理工女子が行き交う。この連載
でも、五回続けて女子学生の登場
である。その中で、アマンダさんは
友人とともにインドネシアから日
本の姫路女学院高等学校に留学し、
KITに進んだ国際派だ。

「若いうちに自国と異なる文化
に触れたくて日本にきました。姉
はドイツに留学中です。自分のや

りたいことを後押ししてくれる両親
には本当に感謝です」

笑顔が絶えない。日本語も流暢
だ。何事にもポジティブで快活な
人柄がにじむ。進路担当教諭から
KITを紹介され、「問題解決の実
践力とソフトスキルを鍛える独自の
プロジェクトデザイン教育、そ
れに充実した研究や学生サポート
も魅力でした」。合格をつかむため

日本語の勉強に力を注いだことは
言うまでもない。

入学からさまざまな学科プロジ
ェクトや課外教育活動プロジェクト
に参加してきた。「SDGs Global
Youth Innovators」もそのひと
つで、昨年八月、SDGs達成に向け
て国内外で活躍する若者を支援する
国連開発計画(UNDP)主催の次
世代リーダー育成プログラムの一
人にも選ばれた。

さらに、翌月、KIT「Beyond
SDGs推進センター」と国連食糧農
業機関が共同開発したSDGsア
クションカードゲーム(ネパール版
クロス)の発表と体験会のためネパ
ールを訪れた。カードゲームは、同
国の基幹産業である農業の振興と
環境負荷低減の両立を考える内容
で、アマンダさんはKITチーム
を代表してあいさつした。

実は訪問時、現地は若者らの反
政府デモによる外出禁止令の戒厳
下にあった。引率したBeyond

SDGs推進センター所長の平本
督太郎教授は、「彼女のスピーチは開
催に尽力した人々への感謝やユース
としての活動目標を自身の言葉で
しっかりと伝え、両国や国連食糧農
業機関との絆を深めるとも意義
深いものになった」と感嘆する。

アマンダさんの目線は世界へ向
いている。夢は、国連などの国際機
関を舞台に、地球規模で解決が迫
られる数々の課題に携わること。

来春、大学院に進学し、平本研究室
でSDGsを具現化するソーシャルビ
ジネスや教育システムに関わりた
いと描くのも、そんな強い意思か
らである。

「日本の学生はおとなしい。自
分の意見をもっと出さないと、周
囲に分かってもらえません」。率先
垂範する彼女の存在が、KITに
新たな風と刺激を吹き込んでいる。

金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘七二
電話番号(076)248-1100